

# 一学年だより

No. 16

令和6年 1月17日  
太宰府市立太宰府西中学校  
文責：江崎 彰泰

## テストで自分を磨く

～人と比べるのではなく、今の自分を磨き、成長させる～

後期後半が始まって1週間が経ちました。生活のリズムは整ってきただしょうか？「eライブラリ」による家庭学習に積極的に取り組んでいますか？

さて、2月には「学力診断テスト 2/2(金)」と「期末考査 2/8(木)・9(金)」が行われます。ですから、みなさんは「期末考査」の勉強と「学力診断テスト」の勉強を同時に行っていかなければなりません。



「学力診断テスト」の出題範囲は、これまでの学習内容が範囲なのでものすごく広いです。あまりに範囲が広すぎて勉強のやり方がわからず、「実力を試すのだから、わざわざ勉強する必要はないんじゃない？」なんて、言い訳や勘違いをしている人はいませんか？せっかく「テスト」があるので、何もしないのはあまりにもモッタイナイ。しかも、「高校入試」の出題範囲はさらに広い…。計画的に勉強していかなければ、3年間の復習という「大きな仕事」はできません。

では、「学力診断テスト」に向けてどのように勉強すればよいのでしょうか？範囲が広い場合のテスト勉強は「過去問」が頼りになります。本日、「過去問」が配られました。実際にやってみると、解けない(わからない)問題が出てきます。多くのことを「忘れている」ことにも気づかずです。そんな場合は、家できちんと復習するのです。復習によりその「忘れている」は、無事に「復活」します。本当は「わからない」のではなく「忘れている」だけなのです。

「学力診断テスト」とは「今のみなさんの頭の中にある知識の実力」を試すテストではありません。「学力診断テスト」とは「忘れているコト」を「復活」させる。そして、「広範囲なテスト範囲をいかにして勉強するか」その段取りの良さを試すテストであると心得てください。言ってみれば、「みなさんの勉強法」が試されるのです。

ほとんどの人が「同じ勉強をするなら効率よく勉強したい」と思っているでしょう。では、「効率のよい勉強」ってどんな勉強だと考えますか。その答えの中で多いのは「短時間(期間)で成績の上がる勉強」なのですが、「効率のよい勉強」とは本当はそうではありません。

実は、「勉強の効率」とは、「勉強するときの気持ちの持ち方」にあります。どんなことでもそうですが、後ろ向きな気持ちで行動しても、決して力にはなりません。

常に前向きな気持ちで取り組むこと、楽しく勉強に取り組むこと。これに勝る効率はありせん。何かを成し遂げるためには、たくさん、一生懸命に努力をする必要があります。その努力を楽しめるかどうかは、みなさんの気持ちの持ち方で決まります。中途半端にやっている人のところには勉強の面白さ・楽しさはやってきません。真剣に取り組んでいる人の心の中に、勉強の面白さ、楽しさが生まれてくるのです。

さあ、前向きな気持ちで、テスト勉強を一杯楽しもう!!

### 復習方法

- ①正解・解説や教科書を見て、解き方を調べる。
- ②わかったら、正解を見ずに、実際に解いてみる。
- ③解ければOK、解けなければ再度、正解を見る。
- ④「わからない」場合は、友達や先生へ質問する。

今までに受けた「定期考査」や「夏課題テスト」、「冬課題テスト」の問題を解き直したり、苦手な内容のワークをもう一度することもオススメです。

## 学力診断テスト出題範囲

- 国語：●説明的文章 ●文学的文章 ●古典 ※漢字、語句、文法を含む  
数学：●正の数・負の数 ●文字式 ●方程式 ●比例・反比例  
●平面図形  
社会：●世界の諸地域【アジア州～北アメリカ州】(教科書 47～107ページ)  
●人類の出現～奈良時代(教科書～47ページ)  
理科：●いろいろな生物とその共通点(全範囲)  
●身の回りの物質(全範囲)  
●物理：身近な物理現象(教科書136～159ページ・凸レンズのはたらきまで)  
英語：●教科書 ～94ページまで ※リスニングテスト実施



できるかできないか、ではなく、やるかやらないか

いつも2人の自分がいる  
できないと思ってあきらめる自分  
できるとしてあきらめない自分  
選ぶのは自分

## 勉強することと自制心

齋藤孝著「教育力」より

勉強するといちばんいいことは、知識が増えること以上に、頭が良くなるということなのだ。「勉強すると頭が良くなる」ということは意外に見落とされているが、「なぜ勉強をするのか」という問いへの一つの端的な答えである。運動すると運動神経が良くなる。運動部に入って何年かやっていると、元はそんなに動きが鋭くなかった人でも、ある程度、体が動くようになる。それと似ている。勉強すると頭が良くなる。頭が良くなると同時に心のコントロールもうまくいくようになる。

勉強というものをすることによって、ある種の自制心という、メンタルコントロール(心の制御)の技術も学ぶことができる。そういう心の技がセットで付いてくるわけである。これは、言ってみると人類の長年の知恵である。

考えてみれば当たり前のことにすぎない。勉強するということの基本は、人の言うことを聴くことである。耳を傾けて我慢して聴くという心の構えが求められる。「おれが、おれが」という自己中心的・独善的な態度を一度捨てる必要がある。「自分に理解できないことは全部価値がない」という、自分の好きか嫌いかすべてを決めるという態度では何も学べないのだ。

先人達の発見したことに対して耳を傾け、しっかり聴くということが、学ぶということの基本だ。そうした学ぶ構えができて人は、ほかの人に対しての意識を持つこともできやすい。人の言葉を聞いている間は、自己中心的な態度をやめているということだからだ。

知識や技を吸収するときには、人の言っていることに耳を傾けるという素直な態度が必要である。素直であるということが、学ぶという活動そのものの持っている本質なのだ。基本的には学ぶという活動は「素直さ」を育てるものである。

そういうわけで、勉強をすると素直に吸収する構えが技となる。これがすなわち、頭自体がよくなるということだ。